（1）およそ１００年前の座間の様子

・ほとんどの家が農家。貧しい家も多かった。（当時の写真を見るとはだしの子どもが多い。）

・大人は忙しいため、子ども達はほったらかしになっていた。そのため、いじめや乱暴をしたり、人をからかったりといった子ども達も多かった。子どものころ体が弱かった鈴木利貞さんもいじめられがちであった。

・子どもも奉公に出たり家の手伝いをしたりするなど、働くのが当たり前だった。仕事のために学校に行けない子、行けても尋常小学校４年（高等科には進まない）までの子も少なくなかった。

・テレビ、ゲームなどの娯楽がなく、本を手に入れるのも難しかった。後に幼年会で本を購入するために会員一人当たり、月五厘ずつの積み立てを始める。初めて購入した本は、五銭～九銭のもの数冊ずつと、一冊二十銭（月五厘で四十ヶ月分）の『孫悟空』だった。

利貞さんは小学校時代、友達と次のような会話をしています。

「・・・・このごろの座間小学校はとても荒れている。乱暴だし、行儀がわるい。

こんなではだめだが、一人や二人の力ではどうしようもない・・・・」

こうした様子は座間だけでなく、このころの農村では、多くのところで見られました。

後に幼年会をつくった利貞さんは、このような村の子ども達をなんとかして、変えたいと、日々考えていました。